

浅原小学校の沿革

| | | |
|----|----|--|
| 明治 | 7 | 浅原村字成ヶ原宝珠庵（なすがはらほうじゅあん）に村落学校を創立。「正誠舎（せいせいしゃ）」と名付ける |
| | 8 | 同村の酒井竹一（さかいたけいち）氏宅に移転する |
| | 10 | 「浅原学校」と改称する |
| | 13 | 同村成ヶ原に校舎を新築する |
| | 15 | 「公立浅原小学校」と改称する |
| | 24 | 「浅原村立浅原小学校」と改称する |
| | 31 | 校舎を新築する |
| | 39 | 「浅原村立浅原尋常小学校」と改称する |
| 大正 | 11 | 学制発布50周年記念式典を挙げる |
| 昭和 | 11 | 校舎を新築する |
| | 16 | 「浅原村立浅原国民学校」と改称する |
| | 19 | みそ汁給食を開始する |
| | 20 | 広島市比治山国民学校より疎開児童が来校する(100人) |
| | 22 | 「浅原村立浅原小学校」と改称する |
| | 23 | 浅原PTAが発足する |
| | 30 | 町村合併により、「佐伯町立浅原小学校」と改称する |
| | 33 | 校章と校旗を制定する |
| | 35 | 給食調理室を設置、完全給食を開始する |
| | 37 | ピアノ開きを行う、校歌を制定する |
| | 38 | 鼓笛隊を結成する |
| | 40 | 小瀬川にPTAで水泳場を設置する |
| | 51 | 制服を制定する |
| | 53 | 屋内運動場が新築落成する |
| | | ピアノ・吹奏楽器の寄贈を受け、ピアノ開き・記念音楽会を開催する |
| | | 文集「あさはら」創刊号を発刊する |
| | | 54 |
| 55 | | 校舎新築落成式・創立百周年記念式典を行う |
| 58 | | 開校百周年記念学校植樹祭を行う |
| 59 | | 学校給食研究優良校の表彰を受ける |
| 62 | | 全国小学校管楽器研究誌の取材を受ける プールが完成する |
| 平成 | 5 | 「浅原みどりの少年団」の結団式が行われる |
| | 7 | 学校林と運動場に植樹をする(桜・アメリカハナミズキ) |
| | 11 | PTA奉仕作業により、正門前の壁の絵が完成する |
| | 12 | 上田宗箇（うへだそうこ）没後350年行事の一環としての宗箇祭に全校で参加する |



昭和41年。テレビ番組に吹奏楽団で出演。浅原小の音楽への取り組みの先駆けとなりました。



運動会⑤と運動場壁面のペンキ塗り⑥。共に平成9年撮影。保護者や地域がさまざまな学校行事に参加してきました。



浅原発のオーケストラ、「浅原ヴィヴァンテオーケストラ」の前身にあたる浅原こどもバイオリンクラブの様子。当時は、広島交響楽団から講師を招きレッスンを受けていました。



現在の校舎内の様子



「宗箇祭」
浅原ゆかりの茶人、上田宗箇（うへだそうこ）。追慕のため毎年浅原では宗箇祭が開催され、没後350年（平成11年）から全校あげて参加してきました。



①



①昭和54年撮影。教室の様子。この年木造校舎から現在の校舎への建て替え工事が行われました。②昭和17年撮影。校舎全景。当時の児童数は男子128人、女子108人でした。写真右手前の石柱は現在も残っています。当時の木造校舎は昭和11年から昭和54年までの43年間。建て替え後は、現在まで同じ校舎が使われてきました。



③



④

木造校舎時代の廊下③と図書室④の写真。ともに昭和54年撮影。小さな穴が開いているところもあり、冬は下から吹く風が冷たかったとのこと。昭和49年に当時のPTAの連署で校舎建て替えの陳情が行われました。



体育館横の二宮尊徳像。昭和18年に戦争のため供出されるまでは銅像でした。昭和19年に現在の石像が建てられました。

01

my precious school

音楽と共に
その歴史はあった
浅原小学校

この3月で浅原小学校は141年の歴史に幕を下ろします。だからといって、たくさんの思い出がなくなるわけではありません。掛け替えのない瞬間を過ごした学び舎。写真や思い出話とともに、その姿を振り返ります。



浅原小学校校章

memories



浅原ヴィヴァンテオーケストラ
藤本 真以さん（22歳）

平成16年浅原小学校卒業。浅原こどもバイオリンクラブで活動し、その後浅原ヴィヴァンテオーケストラとして高校3年まで演奏活動を続ける。

音楽の文化が根付いたこの学校で育ってきました。

私が通っていた当時は、吹奏楽を2年生から6年生までが一緒になって演奏していました。2年生になると自分の好きな楽器を選び、パートを分担していました。

また、当時の校長先生がバイオリンを朝礼のときに演奏したことがきっかけで、同級生とともに興味を持ち、浅原市民センターでバイオリン教室が開かれることになったのです。講師には広島交響楽団の人を招き、週に1回習いに行きました。

中学に入学してからもそれは続き、地域の人たちと「浅原ヴィヴァンテオーケストラ」を結成。その後、大学受験のため演奏からは離れていましたが、閉校をきっかけに現在のオーケストラに参加し、1月25日には小学校で演奏会を行いました。

子どものときからそうした経験ができたのは音楽の文化が根付いた浅原小で育ってきたからこそ。私の学校生活は、音楽に彩られたものでした。

学校が無くなっても、ここを卒業してきた人の足跡は残ります。

小学校の目の前に流れる小瀬川。私の子どもが通っていた当時は、水泳の授業をそこでやっていたんです。

子どもと孫、合わせて6人がここを卒業していきました。思い出深いのは、長女が5年生の時（昭和53年）に地域や保護者からの寄付で吹奏楽器が学校に入り、音楽会が開催されたこと。その後も人数が少なくなるまで、プラスバンドを組んでいました。

私が退職後、浅原市民センターに勤務していた時、「宗箇祭」にお茶のお運びで児童が手伝ってくれることになりました。普段やんちゃな子どもも緊張感を持ちながら取り組む姿を見て、この場所だからこそ経験できる、とてもいい機会だと感じました。

学校は無くなってしまいましたが、ここを巣立った人の足跡は、消えませんが、私のまぶたの裏には、今も小瀬川で元気に泳ぐ子どもの姿が焼き付いています。

浅原小学校評議員
松田 玲子さん（71歳）



22歳で浅原に移住、佐伯地域の保育園に勤務。子ども3人が浅原小を卒業。定年後は浅原市民センター業務に携わり、現在は浅原小の学校評議員を務める。